

▼現在の遺跡の状況

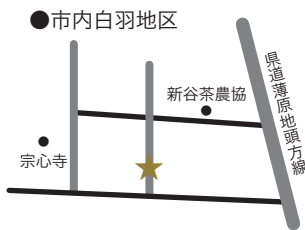


▼出土品: つぼ型土器の口縁部



埋蔵文化財包蔵地

▼出土品: つぼ型土器の胴と底部



新谷遺跡

History

キラリを再発見

御前崎台地上の弥生集落

昭和40年、白羽地区にある宗心寺の東側に農道をつくる際、削った山の斜面から竪穴式住居跡が発見されました。その住居跡からは、弥生時代中期末(約2千年前)の白岩式土器と呼ばれるつぼやかめが出土しました。

新谷遺跡のすぐ近くには、清らかな地下水が湧き出す泉があり、昭和初期までは、その湧き水の流れに沿って水田がありました。生活の場ときれいな水が近くにあること、弥生時代には稲作が始まっていたということから、同遺跡周辺でも水田耕作が営まれていたと予想されます。

白羽地区には、新谷遺跡のほかに8つの遺跡があります。御前崎町史の「原始時代」を執筆した静岡県考古学会副会長の佐藤達雄氏は「台地の上に遺跡が立地していることから、水田耕作のほかに畑作も営まれていた可能性がある」と考察しています。

Atomic

暮らしと原子力

住民の安心のために国へ要請

- ① 今後の国のエネルギー政策の見通しと原子力発電の位置づけを示すこと
 - ② 事故の原因究明と対策、除染、被災者への補償に全力を挙げる
 - ③ 原子力災害に備えた防災指
- 東日本大震災により発生した福島第一原子力発電所事故を受けて、国の要請により、浜岡原子力発電所は全号機を停止しています。その後、国からは中部電力の津波対策に対する評価や福島原発の事故原因などの報告はなされておらず、私たちの安心を判断する材料は、乏しい状態となっています。そこで原子力発電所に対する市民の不安を取り除くため、10月3日に御前崎市議会が意見書を、10月11日に石原市長が要請書を、それぞれ国へ提出しました。要請書の概要は次のとおりです。



細野大臣に要請する石原市長(中央は小山展弘衆議院議員)

- ④ 国民に信頼されるような原子力発電所の新たな規制機能やチェック体制を構築すること
 - ⑤ 浜岡原子力発電所の安全確認と評価の見通しを示し、国が前面に立つて地域住民に丁寧の説明すること
- 要請書に対する国の回答は、次号でお知らせします。